



BiG-i Communication Paper

The title of our information paper "i-co" is pronounced the same as the Japanese word "aiko," which means here an equal relationship where no one wins or loses. The purpose of this free paper is to offer useful information for everyone, with and without disabilities, with the motto of "Sharing and Caring."

2016
january

vol. 21

「あいこ」は、勝ちも負けもない対等な関係を表す言葉です。「あいこ」は、この分かち合いの精神で、障がいのある人ない人にかかわらずお役に立つ情報を発信します。



知的、発達障がい児(者)にむけての劇場体験プログラム
劇場って楽しい!! 子どもゆめ基金助成活動

第1回 2015年9月13日(日)
映画体験「ひつじのショーン」「ウォレスとグルミットベーカリー街の悪夢」
第2回 2015年10月18日(日)
コンサート体験「音のつぶコンサート」
出演:橋本三千代(ピアノ)、赤城史穂(うた)
第3回 2015年11月8日(日)
オペラ体験「晴ちゃんのおもしろオペラ」
出演:晴雅彦(バリトン)、石橋栄実(ソプラノ)、關口康祐(ピアノ)
主催:共に生きる地域の“絆”プロジェクト委員会
協力:全国手をつなぐ育成会連合会
会場:国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)多目的ホール

撮影=成田直茂

障がいは環境にあり

ビッグ・アイでは、障がいのある人もない人も、いっしょに舞台を楽しんでいただけるよう、さまざまな鑑賞サポートを行っていますが、まだまだ“知る人ぞ知る”取り組みであることは否定できません。比較的重度とされる身体障がい者支援施設に勤めた経験のあるビッグ・アイのスタッフも、鑑賞サポートというものがあることを当時は全く知らなかったと言います。

「障がい者」という言葉からは、その人自身の個性や特徴に障がいがあるというイメージを受けてしまうかもしれません。しかし、多くの場合障がいは、社会の側にあるのです。障がいが社会の側、すなわち環境にあるのなら、その環境を整えることで、公演の本質を妨げず、さまざまな人にその



おもしろさをありのままに伝えよう。そうした考えが鑑賞サポートという取り組みの根幹にあります。

ビッグ・アイが行う鑑賞サポートには、目の見えない人、見えにくい人への音声ガイドや点字プログラム、拡大文字プログラムのほか、耳が聞こえない人、聞こえにくい人への手話通訳や要約筆記、音声補聴等があります。車いす鑑賞スペースや補助犬同伴でご覧いただける席を設けるなど、さまざまなサポートを行う一方で、知的障がいや発達障がいの人にも安心して舞台を楽しんでいただるためにどうすればいいかということが長年の課題でした。

この課題に正面から向き合うことになったのは、今から2年前のこと。とある一人のお母さんとの出会いがそのきっかけとなりました。

(次頁へつづく)

劇場って

わからないから怖い。わかれば…?

そのお母さんの息子さんには、知的障がいがありました。歌舞伎が大好きなお子さんで、家では何時も歌舞伎のDVDを鑑賞するのだと言います。そんな息子にお母さんは本物の歌舞伎を見せてあげたいと思うのですが、劇場という日常から離れた空間で、息子がどのような状況になるのかと不安に思います。大きな声を出さないか、歩き回ったりしないか、周囲の観客に迷惑をかけないかが心配で、歌舞伎につれていくことができないです。

いつも違う雰囲気、薄暗い場所、大きな音、大勢の人…。劇場という空間で起きる普段の生活はない出来事が、不安や恐怖に繋がってくるのかもしれません。なぜ薄暗いのか?なぜ大きな音なのか?なぜたくさんの人がいるのか…?それを理解することができれば舞台を楽しめるのではないか?劇場という空間を体験できる機会があれば…。そんなお母さんの思いを中心に、この劇場体験プログラム「劇場って楽しい!!」の企画が生まれました。

まずは答えを

劇場は非日常的な空間です。照明や音響、さまざまな演出効果により非日常を、あるいは日常を劇的に描き出すことが劇場の醍醐味、エンターテインメントであるとも言えます。ただ、こうした演出(突然大きな音が鳴ったり、客席が暗くなること)が不安の要因になるのではないか。

劇場体験プログラムを考える中で、まずはこうした不安の要因となる部分、なぜ大きな音が鳴るのか、なぜ暗くなるのかといった「なぜ?」に対する答えをわかりやすく提示し、その上で劇場を体験してもらうという方針が決まりました。

例えば、開演前のブザー音。突然会場内に鳴り響くこの大きな音については、「もうすぐ楽しいことがはじまるよ。席につこうね」という合図であることを先に

伝えます。本番前の練習としてブザー音を鳴らしてみせながら、「大きないとみんなに聞こえないから大きな音なんだよ」と解説を加えます。

客席が暗くなる理由については、「舞台の上の人や照明がきれいに見えるように客席を暗くしているんだよ」と説明しながら、徐々に客席の明かりを暗くしています。

また、こうした学びの機会を1回で終わらせるのではなく、全3回のプログラムとし、毎回説明を反復しながら、少しずつ劇場という空間に慣れていくよう工夫を加えました。客席の明かりについては、第1回では周りの人の表情までくっきり見えるくらいの明るさですが、最終回ではほぼ一般の劇場に近い暗になります。

もちろんこうした取り組みには、出演者の協力が不可欠です。出演者の方々には、明るさや音の大きさに対する要望をお伝えした上で、舞台上の演出を考えいただきました。

“楽しい”に欠かせない“人”という環境

学びの機会を3回設けたからには、各回ごとに「劇場って楽しいな」「次も行きたいな」という思いを持って帰っていただけるような雰囲気づくりが必要であると考えました。少々大きな声で騒ぎ出したとしても受け入れられるくらいの適度な「ゆるさ」が会場にほしい。前出のお母さんの不安の声と同様に、劇場内で子どもが騒ぎ出した結果、周囲の人の冷たい視線に傷つき、それ以来劇場に行かなくなってしまったというお母さんの方の声もたくさん耳にしています。なるべく一般の劇場に近い環境を体験していただきたいという思いもありますが、このプログラムはあくまで体験の場です。3回のプログラムを通して「こういうところは大丈夫」「こういうところは苦手」といったことを学び、見きわめ、「次はこういうところにチャレンジしてみよう」と体験を積み重ねていただける機会にしたいという考え方から、会場の雰囲気づくりにも取り組むことに決めました。

ドキ
ドキ
ワク
ワク



会場の雰囲気づくりにボランティアの力は欠かせません。広い劇場の中ではたくさんのスタッフが必要になるのは当然のことですが、何よりも会場の雰囲気をつくるのは、お客さまと接する“人”という環境だからです。

ビッグ・アイには、「ビッグ・アイ サポーター」という登録ボランティアの制度があり、障がいのある人、ない人、10年以上のベテランや初めての人、性別も年代も違うさまざまな方にボランティアスタッフとして活動していただいております。今回もお客さまの身近にいて温かく見守ってくれる存在として、活動していただきました。

体験からの学びがもたらすもの

「なぜ?」に対する答えをどのように伝えるか?安心して体験を重ねることができる雰囲気をどう作っていくのか?それぞれに準備を進めていく中で、やがて劇場体験は本番を迎きました。

第1回となる映画体験では、「ひつじのショーン」「ウォレスとグルミット」を上映。参加者の集中力を考慮して、短くて見やすい映画を選びました。

司会からブザーの説明をし、その後でブザーを鳴らしても、やはり会場からは大きな悲鳴が聞こえてきます。次に客席が暗くなる理由の説明があり、ゆっくりと客席が暗転すると、ぼんやりとした明かりの中から「こわい」という声が聞こえました。ただ、会場の暗さに目が慣れてくると、ザワザワとした声も収まり、会場内を歩き回る子が見られるようになりました。映画が始まると、想像以上にみんな集中して鑑賞している





ように見えました。

第2回はコンサート体験。橋本三千代(はしもとみちよ)さんがピアノを演奏し、赤城史穂(あかぎふみほ)さんが歌います。前回よりは確実に会場内は静かになっていました。ブザー音や照明の変化にも、ぐっとこらえている様子がうかがえます。前回実際に体験したことが学びとなったのでしょうか。体験する機会さえあれば、不安な状況にどう対処するかの選択肢を広げていくことができる。そんな考えを強くした瞬間でした。

第3回はオペラ体験。晴雅彦(はれまさひこ)さんが司会とバリトンを、石橋栄実(いしばしえみ)さんがソプラノを務め、關口康祐(せきぐちこうすけ)さんがピアノを演奏します。オペラの見どころや楽しみ方をおもしろおかしく解説しながら、舞台は進行していきます。もしかすると、ビッグ・アイが主催する他の舞台公演よりも、集中して鑑賞されていたのではないかと感じました。

公演内容に対する好みは人それぞれなので、集中の度合いは単純な比較では測れませんが、1回目に大きな悲鳴を上げていた方も2回目以降は緊張もとけ、3回目にはリラックスして鑑賞を楽しんでおられるように見えたことからも、実際に体験を重ねることの意義深さが感じられます。

会場では、昨年の劇場体験に参加された方が、今年初めて参加された方をリードし、雰囲気を和やかにされている姿もみられました。ビッグ・アイでの体験だけでなく、日常におけるさまざまな経験からの成長を感じることができたのは、ビッグ・アイにとってもうれしい発見でした。

ご家族にとっての体験の場に

毎年、セミナーや舞台公演など、さまざまな主催イベントを行うビッグ・アイでは、イベントごとに必ずあるお問合せをいただきます。それは、知的障がいや発達障がいのあるお子さんをお持ちのお母さんからの「参加してもいいのでしょうか?」というお問合せです。そんなお問合せがあるごとに、「この機会にぜひ参加してみてください」とご案内するのですが、なかなか不安がぬぐえないようで、「うちの子はこんなことは好きだけど、あんなことは苦手で…」とお子さんの様子について語られた上で、あらためて「うちの子は参加できるでしょうか?」「ホールに入れなかったらどうすればいいでしょうか?」とお尋ねになります。初めての環境に不安があるのでしょう。もしかしたら、周りに相談できる人がいないかもしれません。

劇場体験プログラムに参加すれば、全てのお子さんが落ち着いて舞台を鑑賞できるようになるわけではありません。しかし、この場をあらためてお子さんを見つめていただく機会として活用していただければ、何か新しい発見があるのではないかと考えています。劇場の中で大きな声を出してしまうたり、落ち着きがなく歩き回ったりしてしまう理由は、皆一様ではありません。暗いところがダメなのかもしれないし、広い空間が苦手なのかもしれません。経験がないから不安になるのかもしれないし、そもそもが上演されている演目に興味がないだけかもしれません。あまりの感動に気持ちが抑えられないこともあるでしょう。言葉にならないしぐさの一つ一つ。そうしたものの中から、お子さんのことがもっとよく見えてくることになるかもしれません。

ホールに入れなかったとしても、問題はありません。ビッグ・アイの入口まで来ることができたのなら、次はホールの前まで、それができれば次はホールの中へ一步でも入ることができればいいのではないかと思います。劇場体験プログラムだけでなく、ビッグ・アイのイベントが「劇場に行ってみよう」「入れなかったとしても行ってみよう」という動機づけ、「外に出てみよう」というきっかけになればと考えています。

それぞれの地域で

今回の劇場体験プログラムには、遠方からの参加者も多くいらっしゃいました。このような機会はそう多くはないということの表れではないかと思います。ビッグ・アイのような限られた施設だけで行われるのではなく、人々が住むそれぞれの地域にある公共文化施設等において、このようなプログラムが開催されれば、地域の生活はもっと豊かなものになるでしょう。このプログラムは、特別な設備がないとできないというものではありません。福祉の関係者や教育機関、ボランティアなど、地域にある人材が力を合わせれば、開催は可能です。

ビッグ・アイでは、今回の劇場体験プログラムの結果や、お客様からのアンケート、サポーターの声を参考に、このプログラムをより質の高いものにすることに努めるとともに、これまでの2年間に培ったノウハウをさまざまな地域の公共文化施設等に提供できるようしていくことが、これから課題であると考えています。障がいの有無にかかわらず、誰もが等しく芸術文化にふれることができる楽しい劇場。それはきっと、地域の財産、大きな力となること信じています。



司会者の「劇場って」のかけ声に「楽しい!!」と答えながら大きな輪をつくります。会場内の一体感の中でリラックスして鑑賞していただけるよう、公演の要所要所にこのアクションを加えました。



楽しい!!



ボランティアの協力により手話通訳も実施。



公演の後には、ビッグ・アイ サポーター主催による交流会を開催。同じ悩みを持つお母さんどうしの交流の場となりました。

Information

アロマ・ハンドケア講習会を開催しました。

いつもご利用いただき、ありがとうございます。

ビッグ・アイでは、去る10月24日(土)に関西アロマセラピスト・フォーラムの宮里文子氏を講師に迎え、アロマ・ハンドケア講習会を開催いたしました。講義と実技を交えながら、午前と午後の参加者92名の皆さまと楽しいひと時を過ごしました。

ハンドケア実技後のカフェタイムでは、レストラン「ぐらん・じゅ」で販売しているハーブティーと、社会福祉法人ここの家「ここのふる」の焼き菓子をご用意し、アンケートのご記入をお願いしました。沢山の方から「満足」とのご回答を頂き、「癒されました」「リラックスしました」などの喜びのお言葉や、「もっと習いたい」「次も参加したい」という次回開催を希望されるお声も多くあり、講習会は大好評のうちに終了いたしました。

これからもご来館の皆さまにくつろぎの時をご提供できるよう努めてまいりますので、今後ともビッグ・アイをよろしくお願ひいたします。

問合せ ビッグ・アイ フロント
TEL 072-290-0900 FAX 072-290-0920
Eメール front@big-i.jp



フロントから

ビッグ・アイでくつろぎの時を。

ビッグ・アイの宿泊室は、ユニバーサルデザインに基づき設計されたすべての人にやさしい宿泊室です。ぜひご利用ください。

- 宿泊料金 大人6,000円～／人 障がい者4,800円～／人
- 交通アクセス 泉北高速鉄道「泉ヶ丘」駅より約200m



トイレやバスルームなど、室内の随所にユニバーサルデザインを採用。介助の方をサポートする天井走行昇降リフト付きのお部屋もあります。また、非常に備え、セキュリティ対策も整えています。



Program

BiG-i de 宿泊型職場体験??

ビッグ・アイでは、障がい者の職域拡大をめざして、レストラン『ぐらん・じゅ』を中核に、職場体験プログラムを昨年7月から提供しています。11月下旬には更なる試みとして、宿泊型の職場体験を実施しました。

大阪市内の高等専修学校専門課程在学中の学生8名が、レストラン『ぐらん・じゅ』でホール業務を体験したり、テーブルマナーを学びました。また、自分たちが宿泊した部屋や共用部の清掃を経験するなど、ビッグ・アイ全体を就労や社会生活に向けての学びの場として活用していただきました。

「こんな真剣な○○くん初めて見た!」と友達に言われる学生さんの姿もあり、それぞれに就労を意識した体験として取り組んでくれたようです。

同行の先生からは「来年は2泊3日もいいですね!」とお褒め(?)のお言葉もいただき、みんなでヘトヘトになるまで頑張った甲斐もあったかも。。。

みなさんも『ぐらん・じゅ』にお越しいただき、“ビッグ・アイならでは”的サービスを体感してください。

誰もが食事を楽しめる

レストラン ぐらん・じゅ

7:00～21:00(ラストオーダー 20:30)

席数 50席(全席禁煙)

ご予約・お問合せ

国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)1階

TEL&FAX 072-290-0917

大阪府堺市南区茶山台1-8-1



レストランから

メニューをリニューアルしました。

ビッグ・アイのレストラン『ぐらん・じゅ』では11月16日よりメニューを一部リニューアル!ドリンクバー付のおトクな日替わりのランチが2種から選べるようになりました!お友達、ご家族と『ぐらん・じゅ』でランチしませんか?

«日替りメニュー» 11:30～14:00

★ぐらん・じゅランチ 900円

(ドリンクバー付き)

★パスタセット 1,000円

(コンビネーションサラダ&ドリンクバー付き)

★ビッグ・アイ弁当 1,000円

(1日限定10個)



※1/1～3は通常メニューと異なります。(日替りメニューは提供しておりません。)

その他グレードアップした「ハーバルディッシュセット」、新メニュー「エビフライ定食」など、幅広いメニューをご用意してお待ちしております。新年会やご会食などの予約も承っております。

Present!

プレゼントクイズ

今号の特集記事からの出題です



ビッグ・アイが開催した劇場体験プログラムのタイトルは何でしょう?

劇場って○○○!!

NPO法人スwingのアーティストの作品をデザインに使用したオリジナルクッションポーチを5名様にプレゼント

障害のある人々の手仕事品を集めたセレクトショップ「マジェルカ」のオリジナル製品。iPadも収納できる大きめサイズで、クッション材が大切なものを守ってくれます。

おでかけしおり!

5
名様



Check it!! NPO法人スwing <http://www.swing-npo.com/>

マジェルカ <http://www.majerca.com/>

■応募方法

クイズの答えと下記の必要事項をご記入の上、ハガキ、ファックス、Eメールのいずれかでご応募ください。

①氏名(ふりがな) ②郵便番号 ③住所 ④電話番号 ⑤本紙へのご感想やご希望、ご質問など

正解者の中から抽選で5名様に景品を発送させていただきます。当選者の発表は景品の発送をもって代えさせていただきます。

*読者のみなさまからいただいたご意見を「i-co」紙面でご紹介する場合があります。予めご了承ください。

ご応募の際に預かりする個人情報については、個人情報保護関係法令を遵守し、本紙の運営・実施の目的以外には使用いたしません。

■応募締切 2016年2月1日(月)消印有効

■応募先

〒590-0115
大阪府堺市南区茶山台1-8-1
ビッグ・アイ「i-coプレゼント」係
FAX 072-290-0972
Eメール i-co@big-i.jp

鑑賞サポート相談窓口

手話通訳や要約筆記、音声ガイドなど、さまざまな鑑賞サポートに取り組むビッグ・アイ。

鑑賞サポート相談窓口では、誰もが楽しめる舞台づくりや鑑賞サポートに対するご質問、ご意見を受付けております。企画や運営方法など、さまざまなご質問にお答えします。



あんな
コト



こんな
コト

ご質問・ご相談は ビッグ・アイ「鑑賞サポート」係
Eメール theater@big-i.jp

